

第三章 登米地方の天文学（佐藤五郎兵衛とその周縁）

登米郡寺池村三日町に住んでいた佐藤五郎兵衛は天文五郎兵衛とも呼ばれ、はじめ登米伊達家家臣河村春岡に、次いで佐竹義根に天文学（天文道）を学んでいる。また、宝暦九年（一七五九）に佐竹義根の使いとして、当時の曆に掲載されていない日食が起きることを土御門家へ伝えるために上京したことがわかっている。五郎兵衛が残した天文学資料は、書籍・機器類等があり、「渾天儀」や「潮汐天地儀盤」といったものは、仙台藩の天文学の知識を生かしたものである。しかし、それだけに留まらず、彼なりのアレンジを加えるなど創意工夫の人物であったことが想像される。

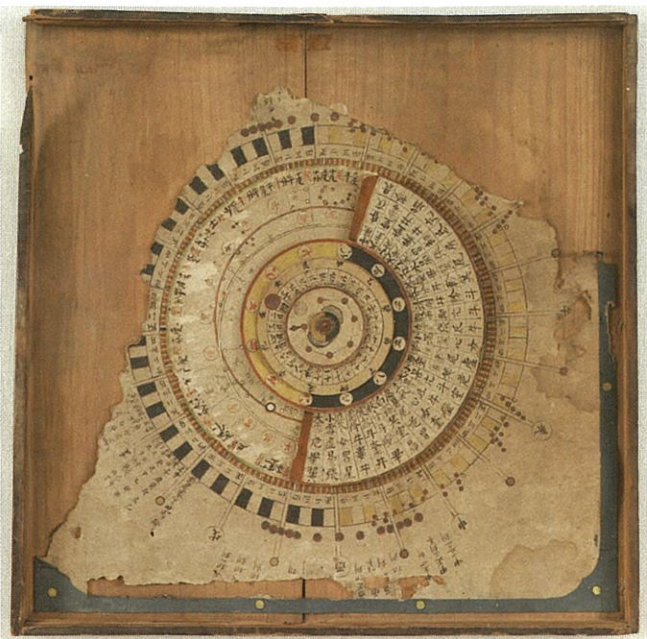
佐藤五郎兵衛や河村春岡のほかにも、登米伊達家の家臣で天文学（天文道）を学んだ者の存在が確認されており、登米地方の天文学研究は新たなスタートを切ったばかりである。



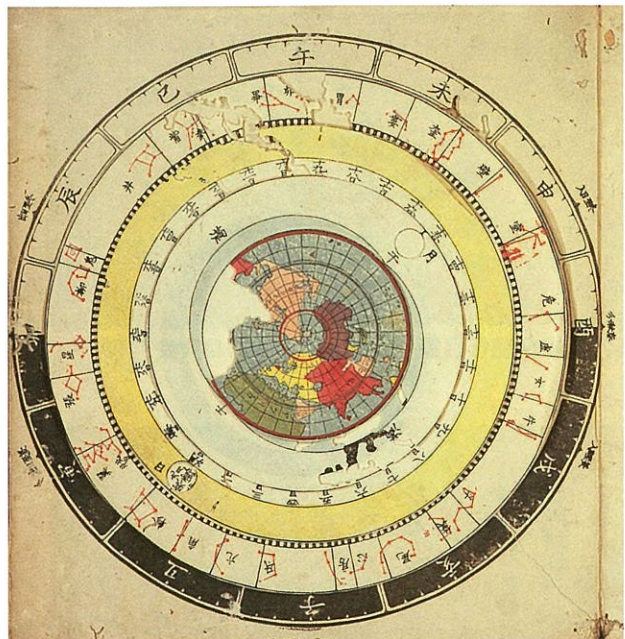
16 渾天儀 当館（天文五郎兵衛資料）

寶曆十二年二月八日義根師之入門  
 春登都後河村春園控  
 今日地考所明  
 九月上旬此圖作者也  
 同日且  
 殿様指上  
 翌十二日  
 杖相出覺  
 十  
 此奥列仙  
 登米郡寺池三日町  
 三郎  
 佐藤五郎兵衛  
 謹啓  
 明和六年同秋中旬書之

渾天儀箱裏書



17 潮汐天地儀盤 当館（天文五郎兵衛資料）



(参考) 平天儀 国立国会図書館デジタルコレクション

天文道統傳  
 神皇正統記  
 土守靈社司 天文  
 洪川即左衛門源春海号都前初稱保  
 井算哲初稱六藏○寛永十六年己卯  
 閏十一月三日丙戌生於 皇都四條  
 室町之第正徳五年乙未十月六日戊  
 辰卒於武江戸駿河屋之宅享年七  
 元文四年己未冬至日  
 東真仙臺佐竹九吉源義根謹識

依藤五郎兵衛 藤原安時  
 享保八年癸卯 五月二十三日時七半時仙臺天部源義根  
 生伊豫丹津比水後同部寺三町住吉歳天室曆  
 庚辰十餘二月初學伊達村家君家臣河村  
 春岡先生之  
 大寺重村公之家臣佐竹九吉源義根師天文曆術  
 神道行其學取學室曆十三癸九月朔日己初刻四  
 分半余日餘義根師考於法川家茂理老達  
 秋原曆不被相記于時江有日  
 仙臺少將家臣佐竹九吉源義根師  
 土御門探御内小泉陰陽大属様  
 京西八條梅小路  
 右江有西二月朔日官元出三子笔遊持奈羅堂  
 二月十九日近上京六用堂前屋屋藤原岩別堂前  
 建仁寺通松原町小泉陰陽大属探御屋敷  
 罷出前文之通日餘達有由一々中上復得

18 春海先生実記 当館（天文五郎兵衛資料）

許狀  
 一可着小服綿白袴事  
 一可懸木綿手纏事  
 右許狀如件  
 土御門殿  
 寶曆三年三月廿日家司奉之  
 真列登米郡寺池村  
 佐藤五郎兵衛

19 黒印の許状 当館（天文五郎兵衛資料）

西宮  
 春星  
 謂  
 速  
 經  
 理  
 萬雄神  
 海原神  
 忌部神  
 奇幡多神  
 金神  
 沢辺神  
 鳥野神  
 龍奈神

20 三十二神号伝 当館（天文五郎兵衛資料）



1 『天文瓊統』(写本) 一・八巻 二冊  
元禄十一年(二六九八)刊 十九世紀書写  
洪川春海著 大江広次書写 大崎市教育委員会

2 『貞享暦法』(写本) 一冊  
享保元年(二七二〇)成立 十九世紀書写  
洪川春海著 戸板保祐考訂 藤広則校正  
大江広次書写 大崎市教育委員会

3 宝暦四年甲戌の貞享暦 一冊  
宝暦三年(二七五三)  
江戸暦開板所 伊勢屋金兵衛 当館  
貞享暦採用後に発行された宝暦四年(二七五四)の江戸暦である。江戸暦とは、江戸市中で暦問屋の株を持った者によつて版行されたものを指す。この年を以て貞享暦を改暦し、翌宝暦五年(二七五五)から宝暦暦が施行された。

4 日本書紀神代巻 上 一冊  
江戸時代(十八世紀末) 当館(天文五郎兵衛資料)  
慶長四年(二五九九)の慶長勅版を基に、訓点を付した日本書紀の活字本である。本資料は佐藤五郎兵衛が使用していたと考えられ、天文や神道に関する書き込みが見られる。

13 桜田伝右衛門宛貫之許状 一冊  
明和三年(二七六六)三月廿四日 個人  
佐竹義根

14 潮汐図説『天文正教論・理気弁・潮汐図説』より一冊  
寛延二年(二七四九) 宮城県図書館(小西文庫)  
高野兼良著  
『潮汐図説』は六代藩主宗村の潮の満ち引きに対する問いに對し、佐竹義根の弟子である高野兼良が陰陽五行説による解釈を以て書き上げ献上したものである。兼良は仙台藩士で、評定所役人などを勤めた。

15 地球儀・天球儀 二基一対  
江戸時代後期(十八〜十九世紀) 個人  
伝 名取春伸所用  
名取春伸が使用したと伝わる地球儀と天球儀である。地球儀にはマテオ・リッチ作の「坤輿万国全図」がもととなった世界図が描かれ、天球儀には洪川春海と息子の昔尹が著した「天文成象図」に描かれた星座が記されている。(大崎市指定文化財)

16 渾天儀 一基  
明和六年(二七六九) 当館(天文五郎兵衛資料)  
佐藤五郎兵衛作  
渾天儀とは、天体の動きを再現できる機構を持つ機器で、この機構を用いて太陽や月、星座などの動きを表す模型としての渾天儀と大型で天体観測を行うための渾天儀と二種類がある。本資料は模型としての渾天儀

5 元和元年ヨリ歳之吉凶留帳 一冊  
元和元年(二六二五) 文政五年(二八二二) 個人  
元和元年(二六二五)から文政五年(二八二二)にかけて、その年の出来事を記した資料である。その内容は多岐に渡り、天体・気象現象や貞享・宝暦暦の採用についても触れられている。

6 昼夜長短之図(写本) 一幅  
宝永六年(二七〇九) 宮城県図書館  
遠藤盛俊作  
仙台藩初の天文者を務めた遠藤盛俊が作成した、二十四節気ごとの昼夜の長さの変化と定時・不定時法の関係を図で示したものである。盛俊は四代藩主綱村の命により、洪川春海の弟子となり天文を学んでいる。

7 天地儀解 一冊  
正徳四年(二七二四) 個人  
遠藤盛俊著  
仙台藩初代天文方を務めた遠藤盛俊が著した天文書である。文中では二十八宿(星座)の宿度や二十四節気七十二候などが記されている。

8 異星鈔(写本) 一冊  
宝暦九年(二七五九) 個人  
戸板保祐著  
遠藤盛俊の弟子で、仙台藩天文方を務めた戸板保祐の著書を書写したものである。本書の大部分は天体現象とそれにより起こる災難についてまとめられ、巻末に宝暦九(二七五九)年二月九日に仙台と一関で観測された太幻日という気象現象について記されている。

17 潮汐天地儀盤 一基  
江戸時代(十八世紀) 当館(天文五郎兵衛資料)  
佐藤五郎兵衛作  
本資料は固定された最下層と回転可能な六層の円盤からなる、一般的にホイールチャートと呼ばれる機器である。構造には仙台藩の天文家に伝わる「天地儀解」や「潮汐図説」の影響を受けていることが指摘されている。

18 春海先生実記(写本) 一冊  
享保元年(二七二六) 元文四年(二七三九)補筆  
十八世紀末〜十九世紀初追記  
洪川敬也著 佐竹義根補筆 佐藤五郎兵衛追記 当館(天文五郎兵衛資料)  
幕府天文方四代洪川敬也(元仙台藩士入間川重恒)が、享保元年(二七二六)に著した洪川春海の伝記である。巻末には春海から佐藤五郎兵衛までの学問系統と略伝が記され、佐藤五郎兵衛の伝記は宝暦十三年(二七六三)の京都上京の際に、日食の予報の誤りを土御門家に報告したことが詳述されている。

19 黒印の許状 一枚  
宝暦十三年(二七六三)三月廿一日 当館(天文五郎兵衛資料)  
土御門家家司  
京都陰陽寮土御門家から佐藤五郎兵衛に与えられた、儀式の際に着用する装束にかかる黒印の許状である。資料18の春海先生実記には宝暦十三年(二七六三)三月二十二日に黒印を押領したことが記されており、本状がそれに該当すると思われる。

9 測地図解 全 一冊  
明和九年(二七七二) 慶応三年(二八六六)校訂  
戸板保祐著 千葉胤英校訂 当館  
戸板保祐の門人に伝えられ、その後市中に広まった測量の伝書について、一関の和算家千葉胤英が図解を加え、数値を改め、巻物から書籍に体裁を改めたものである。保祐は中西・関流の和算を修め、和算家としての著作物が残されている。

10 洛陽往来書記録 一冊  
宝暦四年(二七五四) 個人  
佐竹義根  
遠藤盛俊の弟子である佐竹義根が元文四年(二七三九)から寛延四年(二七五二)の間に、京都陰陽寮土御門家との往来書簡をまとめたもの。これにより、当時の仙台藩と土御門家、洪川家の関わりを知ることができる。

11 殿村晴辰天文伝書・春山翁江文通留控 一冊  
天保九年(二八三八)書写 個人  
須江充頼書写  
佐竹義根と弟子である殿村晴辰が明和四年(二七六七)から安永五年(二七六七)の間に交わした往復書簡を天保九年(二八三八)にまとめたもの。書写を行った須江充頼は仙台藩士で、名取春伸の弟子にあたる人物である。

12 七曜曆宝暦十四歳次甲 一冊  
宝暦十四年(二七六四) 個人  
本澤秋水作  
宝暦十四年(二七六四)の七曜曆である。七曜曆は一般的な曆とは異なり、七曜すなわち太陽・月・木星・火星・土星・金星・水星の位置を二十八宿上で示した惑星曆である。作者の本澤秋水について、佐竹義根の門人以外の詳しい履歴は不明である。

20 三十二神号伝 一冊  
明和元年(二七六四)以降 当館(天文五郎兵衛資料)  
佐藤五郎兵衛著  
二十八宿と木星、水星、金星、火星の合計三十二の星や星座の神号を記したものの。

21 安家秘伝目録 一冊  
明和元年(二七六四)以降 当館(天文五郎兵衛資料)  
佐藤五郎兵衛著  
安家天文道にかかる秘伝目次をまとめたもの。行事式五十条、神代巻秘伝・神道秘伝合わせて五十五条、天文道秘伝十五条の合計百二十条が記されており、この学問の全容がわかる資料である。

22 神系九神道要領記 全 一冊  
明和元年(二七六四)以降 当館(天文五郎兵衛資料)  
佐藤五郎兵衛著  
佐藤五郎兵衛が天明六年(二七八六)に著した、人々が守るべき九つの道についての解説書である。

23 天文ト筈 一枚  
江戸時代(18世紀半以降) 当館(天文五郎兵衛資料)  
佐藤五郎兵衛著  
天文占いに関するものである。中央の四角形に方位が記され、それを囲むように円が描かれている。最も内側の円は方位事に塗り分けられ、外側の円に二十四方位、二十八宿星座を記している。円の外側には八卦と四神が記されている。